857
173

国立国会図書館　タイトル『難波三四景詩歌』　請求記号 857-173

ガラス使用

難波三四景詩歌叙

蓋觀虚無本無名假著名故自大極之一露析二氣五行自真如之一滴下三細六染神世之始爾哉今爰以描入畜草木之氣形且又殘靈佛靈社之旧跡焉者也予難波名所之述詩非其蔑所以於是有渕氏信男彼人乎頗倭歌之達當也青春之時玄冬

857-173

国立国会図書館　タイトル『難波三四景詩歌』　請求記号 857-173

ガラス使用

之節隨見而興既作觸耹而感自生
凡厥所詠雖不知幾百漸尋筆墨之
跡得難波十二景忽諷吟盡美盡妙
非啻賞和歌佳兼亦綴一律之韵
拙數首之尤可謂亂景酔興餘勢與
矣冀止大鵰之笑苟與小鳩之弄云
必亢禄二巳歳冬十月十五日難波
蟄居士松余自題

住吉之松風　生玉庵　松余

樓閣社壇跨郡境妙明無礙耀蒼穹
霞天朝發東南戸運氣暮卷西北嵩
楓葉織詩紅錦色枯松羨樂玉琴濃
鐘聲送客漁村裏千歳萬齡神慮豊

かくうさの雲をいく世ぬぎすてゝ
宮さぶれ為住よ乃松　渕田不厭

天王寺之教開　松余

寶塔寂初清絶阡　催吟氣象四方鮮
鳳凰懸鏡映星影　鴛瓦研瑛褊月前
景節感應稽有賴　良辰靈驗更難權
出生和國補陀聖　今去真如絶化緣

天の下八千代ふるまで玉ぼこの
はしらそのこゝにとゞめおりけり　松余

清水寺之欄景　松余

佳景多端遮目前　詠歌催句自彰賢
玉樓圍海聳山腹　比屋回江聯水邊
引網漁翁漂浪上　推鍬農夫佇春田
吾加千手大悲力　將是載心頭可還

見わたせば花もあれけり木ぬれかな
むらゝ海亀ぞ乃白波　不戚

一心寺之日觀　松余

高祖空公觀道依衝天海院勢如浮
倚松撫去老龍骨座石牧来猛虎頭
青樹影淪魚上木白濤月落兎趨流
伽藍豊立在今古不断稱名濟度舟

風さそふあふ入日かけなくゑ
いうあまさのしの雲ぬたちつさみ　松余

小町之塚塔　松余

塊看榮耀出王宮置色等閑謙市中
翠黛紅顔神女業香油玄鬢化人工
昨宵北闕舞遊樂今夕南濱乞丐忡
新死埋拌松栢下空迎塚塔話思風

八十嶋乃やをうた次塚哉
ゑうさみかたの蔦まさり　不戚

生玉之蓮池　松余

元来此地古宮跡　神徳不偏無愛悲
岩畔単繁疑露慕　蘭池苔滑恠波漓
風荷青葉蹺跑緑　水蓼紅花髣髴緇
聞説當麻安養畫　無端織出藕絲奇

夕風よりたるのよりすがた
いくむらくさうすゆるもの　不厭

妙壽寺之紅葉　松余

天地無私秋景等　野禽山獸自知時
碧琉璃水擧波退　黄纈纈林銜露隨
秀靡蕙蘭千百朶　出墻紅葉兩三枝
圓通處々普門境　高尾不悠往宅居

ちりやすくおくれんりやうかなくさん
今宵もまたあれのまもるもの　不厭

藤棚之酒宴　松余

傳聞是市廛名所　旅客関々去亦難
霞覆紫藤如薄綱　風牽緑蘂似絲端
老児數欲桑来折　男女益思愛得殘
酉水未長何狂乱　落花狼藉夕陽壇

ちりつきは散かりはなれぬ花
そこらへもうつるみどりは　不戚

御堂之海棠　松余

修信鑿開安養城　莫疑方丈革還靈
海棠緑氣晴霞淡　梅樹紅光暁日明
多杜唐朝請帝愛　少傳本土慰人情
堂前春色利生味　拍手相看莘聯清

ちりくれはこの春と花法丹
花色孫ちりいまやさかん　不戚

天満宮之紅梅　松余

暫會詣人焦厥身　経吹憤火祭靈神
當斗宰府尤遷偽　今日洛湯赦免真
梅笑樓前双樹境　松負屋後一枝垠
從之法寶滿摩異　瑞世曇花發構津
梅乃祀神のみまへ　不厭
ゆくゝるゝ祖うんさう苔

野田之藤　松余

芳名第一野田闇　景色自然不可嫌
蝶舞巻藤英美人　鶯梭織柳緑纖人
艶花愛寄霞天晧　豊草乗帰春日潸
依古蛭胡儲社廟　也鉤西海扁舟宮
丈夫の野田ふ為あるを打のへ
ものをかけくまりの夜　不厭

難波浦之葦　松余

閑尋景興視斯辰　帶雪河風春未春
鴻鳳双飛青靄裡　鵠鷄獨立碧流濱
農人待暖荷鋤去　漁父衝寒下網因
誰子揄舟添岸上　弔言舊地葦原津

及暮くさくもみしかを云ふ我
ゆえを難波乃あしとそ有　不敢

難波三四景詩歌跋

難波津よ候やこれ花にのるも誰倡
松余住乃江乃松風吟兎しらの歸
四乃景毫よ加ゆ法ゆまて永々吟して
餘ゆあわれも芳乃業乃みしかを
わかロすさみよ合ゆ事ハ梅ゆ
まゆ法むくゆけゆ多ゆおゆ樂ゆ

857
173

2923

かゝ一見されうれあるもとも去年南海人の
物みるひとゝもやうくるゝとゝなる徒とうく
やまとうたをあみきれあくるせる

淵田氏自勝軒不殿

国立国会図書館　タイトル『難波三四景詩歌』　請求記号 857-173

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『難波三四景詩歌』　請求記号 857-173

ガラス使用